



平成 26 年度の日商簿記の試験において必要な内容を本紙にまとめましたので、ぜひご活用ください。

合格に向かって頑張りましょう。

内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 償却債権取立益</li> <li>• 営業外支払（受取）手形</li> <li>• 保証債務の取崩の処理</li> <li>• 売上割戻引当金の処理※</li> <li>• その他の引当金の処理</li> </ul>
----	---

※とおるテキストには記載済み



●償却債権取立益

前期以前に貸倒れとして処理した売掛金や受取手形の代金を当期に回収したときには、償却債権取立益（収益）勘定で処理をします。

例：以下の取引を仕訳しなさい

前期に貸倒れとして処理していた売掛金のうち¥800 を現金で回収した。

(借) 現金 800 (貸) 償却債権取立益 800

●営業外支払（受取）手形

固定資産等の購入や売却に伴う手形のやりとりは、通常の営業取引（商品売買取引・掛代金の決済取引）で発生する手形と区別して営業外受取手形（資産）営業外支払手形（負債）勘定で処理をします。

例：以下の取引を仕訳しなさい

土地¥6,000 を購入し、代金は約束手形を振り出して支払った。

(借) 土地 6,000 (貸) 営業外支払手形 6,000

●保証債務の取崩

手形を譲渡（裏書や割引）した場合、偶発債務として保証債務を時価で計上します。その後、この手形が①無事決済された場合、または②不渡りになった場合に、計上されている保証債務の取崩の処理を行います。

保証債務の取崩は、負債としての保証債務は減少させますが、費用計上されている保証債務費用の取り消しはせず、同額だけ保証債務取崩益（収益）を計上します。

例：以下の取引を仕訳しなさい

① かねて割引きしていた手形が、本日無事決済された。なお、保証債務¥2,000 が計上されている。

(借) 保証債務 2,000 (貸) 保証債務取崩益 2,000

② かねて裏書譲渡していた手形¥5,000 が不渡りとなり、利息¥300 とともに小切手を振り出して支払った。なお、保証債務¥50 が計上されている。

(借) 不渡手形 5,300 (貸) 当座預金 5,300

(借) 保証債務 50 (貸) 保証債務取崩益 50

●売上割戻引当金

得意先に対して割戻を行っている場合に、当期の販売に関して将来予想される割戻し（売上の減少）に備えて設定する引当金が、売上割戻引当金です。①決算時、②割戻し時、の処理をマスターしておきましょう。それぞれの処理方法は以下のとおりです。

① 決算時

(借) 売上割戻引当金繰入 ×× (貸) 売上割戻引当金 ××

② 割戻し時

(借) 売上割戻引当金 ×× (貸) 売掛金等 ××

例：以下の取引を仕訳しなさい

① 決算において、当期の売上高¥50,000 に対して、2%の売上割戻引当金を設定する。

(借) 売上割戻引当金繰入 1,000 (貸) 売上割戻引当金 1,000

繰入額：¥50,000 × 2% = ¥1,000

② 売上割戻し¥3,000 を行い、掛代金と相殺した。売上割戻しのうち、¥700 は前期に販売したものである。なお、売上割戻引当金¥1,000 が設定されている。

(借) 売上割戻引当金 700 (貸) 売掛金 3,000

売上 2,300

●その他の引当金

貸倒引当金、商品保証引当金、売上割戻引当金、退職給付引当金、修繕引当金の他にも引当金を計上することがあります。その他の引当金の処理は、①決算時、②取崩時、の処理をマスターしておきましょう。それぞれの処理方法は以下のとおりです。

① 決算時

(借) ○○引当金繰入 ×× (貸) ○○引当金 ××

② 取崩時

(借) ○○引当金 ×× (貸) 現金預金等 ××

例：以下の取引を仕訳しなさい

① 決算において、翌期に支給予定の賞与のうち当期負担分¥10,000 を引当金として計上した。

(借) 賞与引当金繰入 10,000 (貸) 賞与引当金 10,000

② 従業員に対する賞与¥30,000 を小切手を振り出して支給した。賞与引当金残高は¥10,000 である。

(借) 賞与引当金 10,000 (貸) 当座預金 30,000

従業員賞与 20,000